

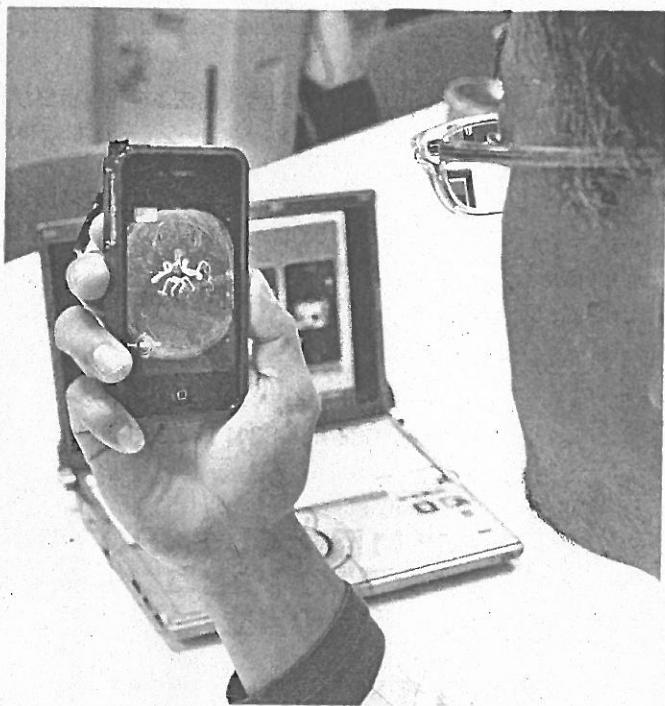
徳島大学病院脳神経外科は、迅速な脳卒中診断に役立てようと、スマートフォン（多機能携帯電話）を用いた遠隔画像診断システムを導入した。病院から送られた症状などの画像を外出先でも確認でき、的確な指示が出せる。県内の病院が取り入れるのは初めてで、全国の国立大学病院でも初。2月には県立海部病院（牟岐町中村）にも導入される。

徳大病院

# 脳卒中 スマホで診断

## 医師、外出先でも画像確認

### 県内初 迅速な治療に活用



徳大病院脳神経外科が導入した遠隔画像診断システム。スマートフォンから画像を確認できる。

システムは東京慈恵会医科大学が開発。システム用アプリを取り込み、指定のサーバーとリンクさせることで、磁気共鳴画像装置（MRI）やコンピュータ断層撮影（CT）の画像情報をリアルタイムで受け取るこ

システムは東京慈恵会医科大学が開発。システム用アプリを取り込み、指定のサーバーとリンクさせることで、磁気共鳴画像装置（MRI）やコンピュータ断層撮影（CT）の画像情報をリアルタイムで受け取ることもできる。大病院では以前は研修医や若手医師が判断に迷った場合、ベテラン医師が病院まで出向いて指示していた。徳大病院は2012年4月にシステムを導入。11月までにシステムを用

明することは難しく、徳大病院では以前は研修医や若手医師が判断に迷った場合、ベテラン医師が病院まで出向いて指示していた。徳大病院は2012年4月にシステムを導入。11月までにシステムを用いた。脳卒中のうち、血管が詰まる脳梗塞の場合、発症から3時間以内であれば血栓を溶かす薬剤が投与でき、効果的な治療のために時間短縮が鍵。ただ、脳卒中の専門医は全国的に不足しており、専門医やベテラン医師が不在の場合、診断が遅れて効果的な治療ができないケースもある。徳大病院での実績を受け、海部病院もシステムを導入する。海部病院では脳卒中に制限せず、全ての疾患に適用。医師への研修の後、4月から本格運用する。（大塚康代）